学校だより　第４２１号　令和５年　６月号

牧小だより

子供のよさを見つけ、引き出し、つないで拓く

↑　行事写真を覧いただけます

■２学期制、５つのステージのうちの第１ステージから第２ステージへ

少し落ち着かない４月、学級のよさを土台にして向かう方向を定めて歩み出した５月が過ぎ、６年生の全校をリードする姿に続いて学校全体が動き出している日々です。５月３０日からスタートする第２ステージは、「進んで考え、行動し、自分をレベルアップする」を目標に据えて取り組みます。子供たちの自主性を尊重し自発を待つことは意味や価値があります。一方で、教育の場である学校は、きっかけや機会を準備して力を伸長させることができる場と考えます。自主的に活動する方法や充実感を体験した経験の少ない子供たちの自主に任せて時期相応の力を育てられないということではいけません。６年生には６年生としての立場を自覚できるようにし、学校への影響を自覚させて自己有用感を体感できるようにしています。下学年には、これら６年生の姿を紹介して学ばせるようにしています。全校の子供たちの感謝や憧れは、さらに６年生を育てます。例えるなら、職員は連携し組織で子供たちが将来自分を結実できるように、進んで考え、行動する機会を準備するという土壌づくりや種まき、水やりを行っています。子供たちよ、大きくなあれと願い、追求しながら。

■２０２３年度は牧小学校創立１５０周年　その⑨

〈７４人が一文字ずつ〉

１週間のオープンスクールには、大変多くの方にご来校いただき、学校の様子を見ていただきました。仕事の合間を縫ってのご来校、祖父母の方のご来校、複数回のご来校に休み時間や給食の様子も見ていただくなど、学校もにぎやかな１週間になりました。また、２７日は、牧地区のみなさまにご参集いただき、１５０周年記念式典を行うことができました。あらためて地区のみなさまのご厚志、常日頃の温かいご支援にお礼を申し上げます。記念式典で岡田町長様、渡邊町議様、渡邊区長会町様より祝辞を頂戴しましたように、地域のみなさまと共に地域の中にある学校としてますます特色ある教育を推進していく責務を感じました。創立の周年の区切りという稀なときに牧小学校で学んでいる子供たち、勤めさせていただいている職員にとっては、今後、様々な時に思い起こされる場面になることと思います。

１５０周年ウィークを迎えるにあたり、子供たちの力を結集して牧小学校に感謝状を書きました。低学年の子供たちは感謝状の周りに絵も描きました。その絵の中に、３時を示す時計や雲梯、虹を描いた校舎の絵がありました。学校という場所が子供たちにこのように愉しげに映っていることに喜び、身を引き締めて受け止めました。職員は、子供たちに給食時の放送で“牧小学校１５０歳をお祝いするメッセージ”を語りました。校長からは、次のお祝いのときにはみなさんがアイディアを出して牧小学校をお祝いしてほしいと伝えました。

今後、昨年度の運動会に引き続いて子供と牧地区の大人で玉入れを競い合いたいと考えています。今年度も大人チームは真剣に玉入れをご一緒しましょう。昨年度、子供たちは大人の真剣さを感じて、負けても楽しい気持ちで「次こそは」と思って終わりました。今年も、大人の真剣さを感じて「だから余計にうれしい」と感じるのでしょうか。また、１０月に岐阜総合学園高等学校の太鼓部のみなさんの演奏を聴いていただく会を計画しております。岐阜総合学園高等学校の太鼓部のみなさんには昨年度も来校いただきました。今回も、子供たちには高校生のたくましく清々しい姿に触れ、自分の将来を楽しみに描かせたいと考えます。わたしたち大人は、高校生から元気をもらいたいと思います。みなさまからのご厚志を使わせていただき、このように創立記念行事を行うことができます、ありがとうございます。

校長　古市諭香